

この『はちのへバス便り』では、 八戸市のいろいろな“バス”の話題”を お知らせいたします。



第3号

発行：八戸中心街ターミナルモビリティセンター

はちのへバス便り

「モビセン」のご紹介

「八戸中心街ターミナルモビリティセンター」（通称モビセン）は、「路線バス総合案内所」として平成22年10月に開設しました。

中心街の中で、市内を運行するバス事業者全ての時刻や乗り場（バス停）、運賃の案内などをを行いながら、「どのような情報だとわかりやすいのか」、「普段バスに乗っていない方にはどのような情報発信すればよいのか」などを日々模索しています。

路線バス上限運賃化実証実験！！

八戸圏域（八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町）では、多くの方が利用しやすいように、「バスの運賃を安くする」「50円刻みで分かりやすくする」という画期的な取り組みを始めました。
「バスは高くて…」と思っていた方、是非この機会にバスをご利用ください！

新しい運賃

●八戸市内のバス運賃

1乗車あたり

150円～300円

●八戸圏域内へのバス運賃

1乗車あたり

150円～500円

※八戸圏域内でも八戸市からは乗継が必要な町村もあります。バスを乗り継いだ場合は、別途運賃が必要です。
※新しい運賃や乗継方法など、ご不明の点については、お気軽にモビセンまでお問合せください。
※この実験の詳細はこちら
「八戸圏域定住自立圏路線バス上限運賃化実証実験」
<http://www.hachinohebus300500.jp/index.html>



- 運営主体：社団法人北海道開発技術センター
- 住所：八戸市大字三日町14-2 青山テラス（旧笹川ビル）1階
- 電話：0178・20・9150
- FAX：0178・45・3280
- 営業時間：9:00～18:00（土日祝日は17:00まで）※定休日なし

成果報告会のご案内

モビセンでは、これまでの取り組みの成果を市民の方をはじめ、関係者などに広くお知らせするために、「平成23年度地域生活交通再生ミッションリ育成・活動事業 成果報告」を開催することとなりました。

講演、報告のほか、皆さまからご意見をいただく時間も設けておりますので、是非ともご参加ください。

●プログラム

①基調講演

「国内におけるモビリティマネジメントの広がり」(仮) 山口大学大学院 鈴木春菜先生

②平成23年度事業成果報告 モビセンスタッフ

③パネルディスカッション「地域生活交通を守り・育てるための新たな展開」(仮)

●日時：3月19日(月)14:30～17:30(14:00開場)

●場所：八戸ポータルミュージアム「はっち」2階 シアター2

●お申し込み：モビセンまでお電話ください

FAXでのお申込みも受け付けております。「成果報告会への参加」と明記いただき、「ご所属、お名前、電話番号」を明記の上、左記までお送りください。詳細は、モビセンのHPでもご確認ください。

収支率ワースト5

路線名	起終点・主な経由地	経常収益 (万円) A	経常費用 (万円) B	経常損益 (万円) A-B	収支率 (%) A/B	八戸市 負担額 (万円)
①五戸～八戸線 (高館経由)	ラピア～中心街～高館～ 上市川～中央(五戸)	906	1,910	▲1,004	54.2	568
②荒谷線 (是川支所前・島守経由)	ラピア～中心街～是川 ～荒谷	674	1,241	▲570	55.9	294
③大野線 (こどもの国前・田代経由)	ラピア～中心街～ 本八戸駅～田代～大野	1,043	1,867	▲824	61.3	477
④五戸～八戸線 (扇田経由)	ラピア～中心街～ 八戸駅前～扇田～五戸駅	3,516	5,737	▲2,221	61.5	610
⑤八戸～三戸線 (相内経由)	ラピア～中心街～相内～ 中央病院～三戸営業所	3,472	5,649	▲2,177	61.5	655

バスの Q&A

※H22年度の南部バス、十和田観光電
鉄各路線の実績より収支率を算出
※抽出条件:①八戸市の負担がある。
②1日平均運行回数1回以上。
※十和田観光電鉄はワースト5に入りま
せんでした。
※荒谷線(是川支所前・島守経由)以外
では、他の市町村からも補助を受け
ています。五戸～八戸線(扇田経由)・
八戸～三戸線(相内経由)は国県から
の補助も受けています。

八戸市内のバスは どれくらい赤字なの?

Q 路線バスは赤字が多いと聞い
たことがあるけれど、どうして赤
字なの?

A 市内を運行している路線、全
系統のうち、7割以上が赤字と
なっており、行政(国・県または市
町村)の負担により赤字の一部が
補填されている路線もあります。

バスが赤字になっている大き
な原因としては、「自家用車の普
及によるバス離れ」が進んだこと
に加え、年々深刻化する少子化に
より通学定期収入等が落ち込ん
でいることが考えられます。しか
も、「利用者が減る→路線の維持
が困難になる→便数を減らす→
使いにくくなる→さらに利用者
が減る」という悪循環に陥ってし
まいました。

このような悪循環をなんとか
して、「断ち切る」ために、八戸市
では様々な取り組みを展開して
おり、わたしたち「モビセン」もそ
の一翼を担えるよう、使いやすい
時刻表の作成やバス路線沿線の
魅力を紹介する取り組みを試み
るなど、市民・利用者の目線に
立って取り組みを展開している
ところです。

バスの車両を小さくすると 経費削減になる?

Q 利用が少ない路線では、「あまり
お客さんが乗っていないから、車両
を小さくして経費を削減すればいい
のに...」と思うのですが...?

A 確かに小型・中型など、車両を小
さくすると、わずかに燃費が向上す
るという効果があります。

一方で、実際には「バスの運行経
費」は「人件費」が多くの割合を占め
ています。しかも、バス事業者は、こ
の人件費を、ぎりぎりのところまで
切りつめて運行しています。



その中でもバス事業者は、小型バ
ス・中型バスの導入を考えてはいるの
ですが、利用者の多い路線(時間帯)に
も対応できる大型バスの方が結果的
に経済的になるという側面もあるの
です。

いずれにしても、「できるだけ
多くの人が少しでもバスを利用する」
というのが、一番の赤字削減につな
がると思います。

170万円※1の乗用車を購入して12年間※2 乗り続けると仮定すると...

※365日/年で計算

- ・車両購入価格: 170万円
- ・車検代 : 90,000円×6回
- ・自動車重量税: 5,000円/年×12年
- ・自動車税 : 39,500円/年×12年
- ・自賠責保険料: 12,000円/年×12年
- ・任意保険料 : 30,000円/年×12年
- ・ガソリン代※3: 60,000円/年×12年

総額 約400万円

↓

1日あたり約910円

(この中に、補修費等は
入っていません!)

クルマで移動すると、「交通費」がかか
らないので、「便利でお得だ」という感
じがしますよね。ところが、車両の購入
費から車検代、自動車税などの費用を
色々考えていくと、「クルマを持っているだけで1日に
910円くらいかかる」計算になります。諸費用がお得
な軽車両なら少し安くなりますが、意外とかかっている
と思いませんか?

一方で、「路線バス上限運賃化」により、バスの運
賃はとてもお得になりました。費用の面からも、「バ
スを使うこと」を考えてみるのにはいい機会ですね!

バスって
安いかも...

※1:新車・中古車の平均購入価格(一般社団 日本工業会レポート89, 2010)

※2:乗用車の平均保有期間(財団法人 自動車検査登録情報協会, 2011)

※3:家計調査結果(総務省 2011年7～9月期)